

ふるさと太尾構想 (平成 27 年度策定 平成 30 年度一部改訂)

～太尾小学校を核とした、まちづくりと防災教育推進プラン～

はじめに 「ふるさと太尾構想」とは

太尾小学校は、45年の歴史において「太尾小学校を核としたまちづくり」という地域の願いを受けて、地域に愛され、地域に支えられ、地域の拠点として、地域との連携によって成長してきた。

しかし、学校とまちとのかかわりにおける課題も感じられる。学校、保護者、地域の共通理解と連携関係の実質化、学校の教育課程の整備による主体的なかかわり、東日本大震災以後の学校、保護者、地域連携による防災教育の推進などは、積極的に課題解決をしていきたいところである。

そこで、40周年の節目に、これまでの歩みとその理念を、学校職員、保護者、地域で共通理解し、整理が必要なものは整理し、持続させていきたいものは持続発展のための方策を考え、意図的計画的に本校の特色として発展させていきたい。

その理念と課題解決、そして推進計画の共通理解を「ふるさと太尾構想」と称する。

1 太尾小学校への地域・保護者参画と支援（本校の先進的風土）

学校運営協議会、教育懇談会による、地域の代表や保護者の代表が学校運営に参画するとともに、学校支援本部（地域コーディネーター）が学校を支援するボランティアをコーディネートする体制を持続発展させていく。

【方針】黎明期のペースでの取り組みを整理し、目的を明確にして負担感少なく、効率的にできるようにする。

2 太尾小学校を核としたまちの構築（地域の願い）

「太尾小学校ふるさとまつり」などの行事を学校、保護者、地域が実質的に連携して実施することを通して、学校を核として、子どもたちと住民にとってお互いの顔が見える、愛するふるさとと思える、豊かな地域社会「ふるさと太尾」の構築をめざす。

【方針】本校の特色ある教育活動に位置付け、学校、保護者、地域で分担し、継続発展させる。

3 太尾小学校の特色ある教育活動の持続と発展

マーチングバンド、特別陸上クラブ、鶴見川を走ろう会など、トライアスロンクラブ、舟運、漢字検定など、地域の理解や支援を受けて存続してきた教育活動を、整理したり、放課後キッズクラブとの連携を工夫したりして、誰もが参加しやすいようにし、存続していけるようにする。

【方針】整理、位置付け整備、分担して、誰もが参加しやすいような形で継続できるようにする。

4 太尾小学校と多様な連携関係の持続と発展

- (1) 幼稚園、保育園、乳幼児支援施設（どろっふ）との連携
- (2) 小中連携
- (3) 県立港北高等学校との連携
- (4) 放課後キッズ、学童など放課後保育との連携
- (5) 町内会、連合町内会、子供会、地域の祭りや盆踊りとの連携

5 太尾地域に学ぶ学習と地域の人、もの、ことへの学校からの能動的なかかわり

- (1) 緑化ボランティアによる、岩石園、水田、メダカ池、鶴見川水族館、屋上緑化、夢ロードなどの教育課程（生活科、総合的な学習、教科関連）による能動的活用。
- (2) 舟運、鶴見川流域ネットワーク、大倉山記念館など郷土の自然や歴史の研究組織、福祉施設や組織（あいの家、社会福祉協議会、地域ケアプラザ）、大倉山地区防犯拠点センターなど安全にかかわる組織との連携

【方針】学校のカリキュラムマネジメントを推進し、能動的、計画的に活用する。

6 太尾小学校を拠点とした、安全な太尾学区のまちづくり（安全教育・防災教育の推進）

学校を拠点として、地域の共助力を高め、防災、防犯、交通安全に関する実践力と安全確保を、子どもからも、大人からも高め合っていく。

特に地震防災に対しては、東日本大震災の教訓をもとに、学校、保護者、地域連携による地域防災拠点訓練の実践と、学校の防災教育の充実により向上させ、学校を拠点として、子どもにとって安全な、災害に強いまちづくりは地域の願いであり学校教育の責務でもある。

【方針】学校、保護者、地域連携により、安全教育・防災教育を推進する。